

水不足の対策

山添村立山添中学校三年

植田 翔惺

みなさんは毎日、水を使っていますよね。もちろん僕も毎日水を使っています。では、その水はどこからきているか知っていますか。

僕たちが毎日使う水は主に川の水であり、その大もとは空から降ってきた雨水です。そして雨を降らせるのは、海や陸の水が蒸発散して大気中にできた雨雲です。そこから地上に降った雨は川になったり、地下水になったりして海に戻っていきます。つまり水は循環しているということです。僕は普段使っている水に対して特別に思うことはありませんでした。それは、いつも蛇口をひねれば水が出てくるため慣れているからだと思います。毎日トイレや風呂や顔洗い、歯みがきや洗たくに水を使っています。他にもご飯やお茶をわかすときにも必ず水が必要です。僕の家は家族が多いので一日に水を使う量がとても多く

なります。

国語の授業でバーチャルウォーターについて学びました。バーチャルウォーターとは物を作るのに必要な水の量のことです。例えば、御飯一杯作るのに二七七リットルもの水が必要で、パイナップル一個作るのに、七五二リットルの水が必要で、ティーシャツを作るには二九〇〇リットルも水が必要になります。

地球にある水のうち、九七・五パーセントは海水であって地球にある水のうち二・五パーセントは淡水であり、人間が使える水は淡水であり、その比率はとても少なく、地球の水をおふろで例えると使える水はスプーン一杯だけです。しかも、その淡水の七〇パーセントが凍っています。凍っていない淡水のほとんどは地下水であり、そのうちの半分が地中深くにあって、利用することができません。人間が利用できる淡水は、浅い層にある地下水と川や湖の水であり、それらは地球全体の

水の〇・〇パーセントにすぎません。このように、地球に存在する水の中で、実際に使える水は限られています。そのうえ、水は汚染が進んで使える水の量は減り続けています。こうした水不足を解決するには、僕たち一人一人が節水を意識することが大切です。

例えば、歯磨のとき、口をすすいでいるときに水を出しっぱなしにすると、三〇秒間で六リットルの水が流れていきます。口をすすぐのにはコップ一杯で十分だから、約五・七リットルも捨てずにできます。

「バーチャルウォーター」でも節水をすることができません。日本はとても残飯が多い国です。日本の食品廃棄物の発生量は、年間で二八四二万トンです。仮に、捨てられたものが御飯だとすると、それを生産するのに使われる水の量は、年間一〇五一億五四〇〇万トンになります。一人当たり一日二・三トンの水を捨てているのと同じです。食べきれる分だけ作り、食べきれば無駄にはなりません。

これが、バーチャルウォーターの節水にとっても役に立つことです。

まず水不足の原因は、人口の増加や産業発展、気候の変動や開発による水源破壊などからきています。人口が増えたと水の使用量が増えます。また、産業発展が進むのと同時に生活に必要な水の量も増えます。その利用において、排出される工業排水や生活排水が河川や海、地下水などの汚染につながっているのです。

なので、水不足を解決するには、節水などのできることをすることが大切です。